

今週の取材協力は  
**三生技研(株)**  
 ☎048・992・2460  
 埼玉県吉川市旭6-1(東埼玉テクノポリス)  
 1985年設立



防・耐火、防音、構造、断熱といった建材の性能評価に対する様々な試験を行う同社。試験体製作から付帯する一般工事、実験、測定などから建材開発を支援する。創業以来、試験体製作は8000件を超え、同社保有の耐火炉による社内耐火実験は2000件。規模、件数、種類、ノウハウ、それぞれの実験に定評があり、試験に関わるすべてを行える日本で数少ない企業。



▲天井クレーンは元々1基だったが、作業効果改善のため2基に増設。菅原社長による、社内の声を実現した一つの例



▲正確なデータを収集するため、試験体の製作は釘の間隔など非常に細かく指示されている



▲図面の意味を理解しながら製作することがこの仕事には必要。施工中も入念に確認する



# 建材開発支援で日本の建設業界を支える 試験体製作と実験の仕事

私たちの命や財産を守る建物。そこで使用されているあらゆる建材は、実験によって安心な品質が確認されている。実験計画から試験体製作、予備実験まで請負う会社。そこには建築現場の外から、建築を支える技術者が大勢いた。

「建材開発のお手伝い」  
 そこから始まりました。

開発された建材はその性能を実験して確認する。同社を創業した井口さんは、ゼネコンとの共同の研究で建材を手掛けてきた技術者だ。「実験のための試験体。かなり大きなものも作りましたね。当時は開発、試験体づくり、実験をトータルで出来る会社が少なかったんです。できる組織は超大手で、それでも時間も手間も非常に大掛かり。そこで実験に関わるすべてを請負うことで、多くのメーカーによる建材開発のお手伝いをするようになりました」  
 同社の実験の7割は火災の耐火や防火。  
 「釘一本まで正確さが求められます。これは大工仕事の腕前というより覚悟の問題。ウチで身に付くものは幅広く、その良い例が弊社の建屋。工事全体は三生技研が取りまとめ、屋根はNEDOとの共同実験。太陽電池の建材一体型なんです」



創業者  
 井口 久生氏



代表取締役  
 菅原 鉄治氏  
 一級建築士  
 工学修士  
 (建築材料)

実験に関わるすべてをやる。  
 それがウチの大きな魅力。

現社長の菅原さんは、元々同社に試験体製作の依頼をする立場だった。「建材メーカーに勤めていたとき、新たな建材開発の実験についてあるゼネコンの技術研究所に相談したんです。そこで三生技研を紹介してもらったことが始まり。客としてすぐに安心できました。現場で働く全員が知識が豊富で最善の方法を自発的に考え動いている。予備実験や試験体製作、何でもやれるのも魅力ですが、何より安心して任せられることに良い会社だと思いましたね」  
 その後の縁で菅原さんは同社に加わり社長に就任。もともと風通しの良い会社だと感じていたが、さらに現場の意見を聞くこと、新人の声も積極的に聞いていくこと。  
 「製作技術のほかに法律や素材の知識など、ウチで働いて得られるものは多い。これがウチの差別化にもなります。1000年企業になりますよ」



西嶋 勇さん  
 (46歳)入社歴25年  
 求人誌の「実験」という言葉に魅かれて未経験で入社。現在は実験や施工など現場の一連を仕切る。

めったに経験できない  
 場所や出会いの醍醐味

今日は壁、明日は屋根。毎日つくるものが違う面白さ。同時にそこで出会う人や場所も新鮮だったという西嶋さんは、未経験で入社した。「研究所にも行くことがあります。大学など専門家の先生に会うこともあります。いろんな経験を楽しんでいるうちに今に至りました。未経験者だったのに、今ではスーツを着て企業に打ち合わせに行くこともあるんですよ」

大工のような作業でありながら、仕事は建築現場に限らない。それは素材や工法など、実験に関わるあらゆる知識を持つプロの特権だ。「確かに覚えることは多い。でも、まわりの人から教えてもらったり、人の話を聞ければ大丈夫。むしろウザいくらい聞く人が伸びる。1年で大工仕事に慣れた後、そこからがこの仕事ならではの醍醐味が始まります」